

## トルコ・シリア地震における国際緊急援助隊での活動

～2次隊臨床検査技師～

◎太田 麻衣子<sup>1)</sup>、佐藤 千歳<sup>2)</sup>、南島 友和<sup>3)</sup>、渡部 典子<sup>4)</sup>、岩嶋 誠<sup>1)</sup>、野村 俊郎<sup>1)</sup>、渡 智久<sup>1)</sup>、大塚 喜人<sup>1)</sup>  
医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院<sup>1)</sup>、岡崎市保健所<sup>2)</sup>、社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院<sup>3)</sup>、富岡中央医院<sup>4)</sup>

【はじめに】2023年2月6日に発生したトルコ・シリア地震に対して国際緊急援助隊（以下、JDR）医療チームが派遣された。2次隊の臨床検査技師として活動した経験から、成果と課題について報告する。【活動概要】1次隊で展開されていた臨床検査に加え、2次隊では血液型検査を実施した。検査実施件数は、引継日を含め2月25日～3月7日の期間に129件の検査を実施した。内訳は、生化学分析21件、血球算定22件、血液ガス分析10件、血液型判定2件、尿検査21件、妊娠反応定性8件、12誘導心電図13件、超音波検査7件、感染症迅速検査25件である。また、採血5件、鼻咽頭検体採取5件を実施した。【課題】活動開始当初の2月の気温は日中でも10℃を下回り、ダンボールとアルミシート、使い捨てカイロなどを用いて検査機器を保温する必要があった。しかし、3月に入ると急激に気温が上がり、テント内が30℃を超えたことから、発泡スチロールと保冷剤を用いて検査機器を冷却する必要があり、環境因子による検査機器への影響については課題である。また、本派遣では派遣可能な臨床検査技師が足りず、

各隊2名の臨床検査技師が必要であったところ、1次隊2名、2次隊1名、3次隊2名（うち1名は2次隊からの派遣延長）となった。本派遣では3次隊で撤収となったが、さらなる長期派遣となった場合、臨床検査技師を継続的に確保することが困難となる可能性が懸念された。【まとめ】JDR医療チームでは幅広い検査に対応可能であり、本派遣では、現地医療施設からの検体の持ち込みや検査依頼があり、被災地での臨床検査ニーズが高いことを実感した。Field Hospitalという環境で信頼性のある検査結果を提供するためには、検査機器を稼働させるための環境整備と、臨床検査技師による管理が必須である。活動環境については臨床検査テントの見直しや冷暖房設備の充実などハード面の整備が求められる。臨床検査技師不足については、現行の登録隊員が出動しやすい環境づくりおよび、新規登録隊員の増員が求められ、災害医療分野における臨床検査技師の課題として日本臨床衛生検査技師会の積極的な関与が求められる。（亀田総合病院臨床検査部 04-7092-2211）